

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	- 知識や技能の個人差が大きい。また、漢字の習熟に課題がある児童がいる。 - 自分の考えや感想を文で表現したり、他者に伝えたりすることが苦手な児童が多い。	- 漢字については、計画的に練習と小テストを繰り返して、定着を図る。 - 理解したことを自覚させ、自分の考えや感想をまとめさせた上で、他者に伝えることができるよう指導する。	
社会	学習問題の解決のために、すすんで教科書や資料から情報を読み取ろうとしていた。	問題解決的な授業展開を心がけ、ノートやワークシートの中から表現方法を選ばせるなど、より主体性が増すような工夫をしていく。	
算数	- 問題の解き方を説明する際に、積極的に発言したり、適切な説明をしたりできる児童が少ない。 - 思考力が必要な問題のテスト正答率が低い。	- 友達の考えを聞く時間を設定し、自分の考えを深められるようにする。 - 応用問題などを必要に応じて提示し、定着を図る。	
理科	観察・実験には意欲をもって取り組んでいるが、実験や観察の結果から考察したことを言葉で表現することが難しい児童が多い。	実験結果を全体で共有した後、問題を振り返らせてから、結果に基づいた考察に取り組むようにする。また、理科で用いる用語について、適宜振り返り、意味を確実に理解させる。	
音楽	学習への意欲は高い。ハ長調の楽譜を読むことに慣れていない。リコーダーの学習では、正しい運指や、タンギング、音色などの技能に課題がある。	フラッシュカードを用いて、読譜に慣れるようにする。リコーダーの学習では、ペア学習で友達の演奏を聴き合い、正しい運指やタンギング、音色に気を付けて表現できるようにする。	
図画工作	筆やパレットの使い方にはある程度習熟しているが、玄翁やノコギリ、段ボールカッターなどの道具にはあまり触れてきていない。発想することに苦手意識がある児童が一定数いる。	同じ道具を複数の題材で使い、中学年で体験する道具に触れる機会を多くする。構想を決めてからつくるだけでなく、行為や偶然生まれた形から発想を広げられる課題を取り入れ、発想の枠を広げる。	
体育	- 各種の運動の行い方は理解しているが、基本的な動きや技能に個人差が見られる。 - 課題を見付けることはできているが、課題を自己のめあてに生かすことができていない。	- 運動のポイントと比べて何ができて、何ができていないのかを、タブレット端末を用いて、実感できるようにし、教師や友達の助言から生かすようにする。 - 学習カードを活用し、授業の導入で、前回の振り返りを思い出させ、自己のめあてを明確にさせる。振り返り際には、自己のめあてについて達成したかを考えさせる。	
外国語活動	3年生の学習内容の基礎的・基本的な学習内容の定着も図る必要がある。積極的にコミュニケーションを図れない児童が多い。	既習内容を思い出すように、ALTから質問してもらい繰り返し復習する。児童が楽しく活動しながら外国語を学習できるよう教材研究を行い、効果的な活動を取り入れる。	